城だより

第６８７号

日本古城友の会・会報　令和８年（2026）３月８日発行

播磨 恒屋城を訪ねる（４月・第 750 回例会）

日　　時：令和８年４月５日（日）現地集合　雨天決行（行程変更あり）

集　　合：JR 播但線溝口駅改札口前　10:00 集合

行　　程：JR 溝口駅　⇒　徒歩 3.0km 約 60 分　⇒　登城口前駐車場　⇒ 徒歩約 20 分 ⇒ 前城(昼食)　⇒　前城北斜面畝状竪堀群　⇒　二の曲輪　⇒　水の手曲輪　⇒ 後城南側帯曲輪 ⇒ 主郭 ⇒ 前城南斜面畝状竪堀群 ⇒ 登城口 ⇒ 徒歩約 60 分 ⇒　JR 溝口駅　解散 15:30 頃予定

※　溝口駅～恒屋城の間は平日はコミュニティーバスの運行はありますが、土日の運行はなく徒歩にて移動しますので、解散時刻が 30 分程度遅くなる可能性もあります。予めご了承ください。

アクセス：大阪駅（8:15 発 姫路行新快速）⇒ 姫路駅（9:18 着／9:32 発 福崎行普通）⇒ 溝口駅（9:57 着）

帰路：溝口駅（15:38 発）⇒姫路駅（15:59 着／16:10 発新快速）⇒大阪駅（17:13 着）
溝口駅（16:04 発）⇒姫路駅（16:29 着／16:41 発新快速）⇒大阪駅（17:43 着）

担当幹事：中西 徹・川村敦史

持 ち 物：弁当（事前に用意してください。溝口駅周辺にはコンビニなし）・飲物・敷物・ハイキング靴・ステッキ・タオル・雨具を必ず持参してください。マスクの着用は各自の判断でお願いします。

参 加 費：正会員・賛助会員 800 円、通信会員・当日参加者 1,000 円
（資料代・保険代・記念写真代・下見費用として）

問 合 せ：中西 徹

（開催は新型コロナ感染状況によります。必ずホームページを確認の上ご参加ください。）

【今回の見どころ】

恒屋城は、築城年代は定かでないが嘉吉年間(1441～1443 年)には築かれていたとされ、室町時代に地元の豪族恒屋光稿によって築かれた。恒屋氏についても断片的にしか歴史に登場しないため詳細は分からないが、天正年間に羽柴秀吉による播磨攻略の際に恒屋氏はこの城に籠もったが攻められ落城している。

恒屋城は松原山の二つの峰を利用して築かれ、南峰に築かれた前城と北峰に主郭である後城があり、南北二つの峰を結ぶ尾根に二の曲輪と水の手曲輪が構築されている。こ

（恒屋城鳥瞰図 作図：川端義憲氏）

人々の暮らした様子が現れてきています。まだまだ不明の点も多いようですが、わかっている範囲で復元が進められています。陣屋にはその半分が再改築中の中御門と通用御門があり、その美しい全景が見えるのは先のことのようです。しかし、雪の中にもその佇まいは立派なもので、今現在も発掘中の陣屋後方の敷地は広大です。その陣屋の中には展示室が併設されています。陣屋の物見櫓は雪のため閉められていましたが、私たちの来訪に合わせて全開していただきました。ここから見える景色は工事中のものではありますけれど、山向きの敷地は広く静かに佇んでいます。

再改築中の三日月藩乃井野陣屋

陣屋の東には廣業館という藩校跡の建物があり、実際に明治まで小学校としても使われていました。その裏手には枯山水の庭園跡もあります。これも陣屋内部の庭園跡とのことです。

復元された陣屋内を見学する参加者

この次に三方里山公園に登り、幕末の演武場跡の石垣を見る予定でしたが、さすがに雪のなか、滑りそうな坂を上り演武場にたどり着くのは少し危険であろうと行程を取りやめにしました。

足底が冷え、なかなか歩いているのも辛くなってきて、駅に向かうことになります。陣屋の管理人さんからは十年に一度くらいの雪の日で、ようこそいらっしゃいましたとおっしゃっていただきましたが、こんな日のお城巡りもまた思い出深いものです。帰り道で郭内の武家屋敷群を通り、見るからに武家屋敷の趣が残る場所を通り過ぎて行きました。まだ中に暮らす人もあり、こうした町が今も残る三日月町は魅力的なものだと思います。

枯山水庭園跡

歩きにくい行程となりましたが、三日月町は歩いて巡るには丁度良く、またその古い町作りもよく残る町です。駅に着いて服に付いた雪を払う頃になってようやく、日が差し始めました。三方里山公園の大きな三日月のシンボルを後にして、またの来訪を誓って三日月駅から旅立ちました。悪天候にもかかわらずご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

三日月駅から見える三方里山公園

報告　高管純子

日本古城友の会

会　長　　中西　徹
事務局　　事務局長　平川　大輔
HPアドレス https://www.kojyo-tomonokai.com/
編集・発行　編集部長　下岡　力